

2種類のコミュニケーション授業の比較

-保育所実習を含む授業と
学内演習のみの授業の比較検討-

長宗 雅美 医療教育開発センター)

寺嶋 吉保 同上

山田 進一 山田こどもクリニック

嵯峨山和美 全学共通教育センター)

荒木秀夫 同センター長

背景

- 現代の大学教育では、従来からの専門教育と共に、人間力をバランスよく育むことが求められている。
- しかしその一方で現代社会は人間関係が希薄になり、「人」が成長しにくくなっている。

徳島大学では文部科学省の補助金を得て、平成18年度後期より平成20年度まで、乳幼児との交流実習を取り入れたコミュニケーション授業を行った。

平成18年度後期：医学科20名

平成19年度前後期：医学科95名、看護70名

平成20年度前後期：医学科95名、看護67名、

歯学部1名、薬学部2名

計350名受講

「医療系学生の保育所実習による子育て支援」

地域貢献

保育所

・保育内容の向上

行政・地域

- ・小児周産期医療
- ・少子化対策
- ・子育て支援



地域の保育所実習

対人援助能力の
高い医療人とし
ての基盤形成

健康な子供の理解

気持ちを察する感性
コミュニケーション能力

ホスピタリティ・
マインド

役立ち感

自己肯定感

専門準備教育

徳島大学

・医療人基盤教育

人間力教育

平成21年度カリキュラム(予定)

平成20年度

ヒューマン・
コミュニケーション
学内演習
(4回)

地域の保育所実習
週1回3時間 4週
園児と1対1交流

中間振り返り

地域の保育所実習
週1回3時間 4週
園児と1対1交流

振り返り

子育て支援体験実習
児童館へ1日1回 (AM:乳児と母、PM:学童)
医学科、保健学科、歯学、薬学混合でグループ構成

全学共通教育科目として開講。

医学部医学科1年生105名(前期履修35名、後期履修70名)

保健学科看護学専攻1年生51名

歯学部歯学科0名、薬学部6名

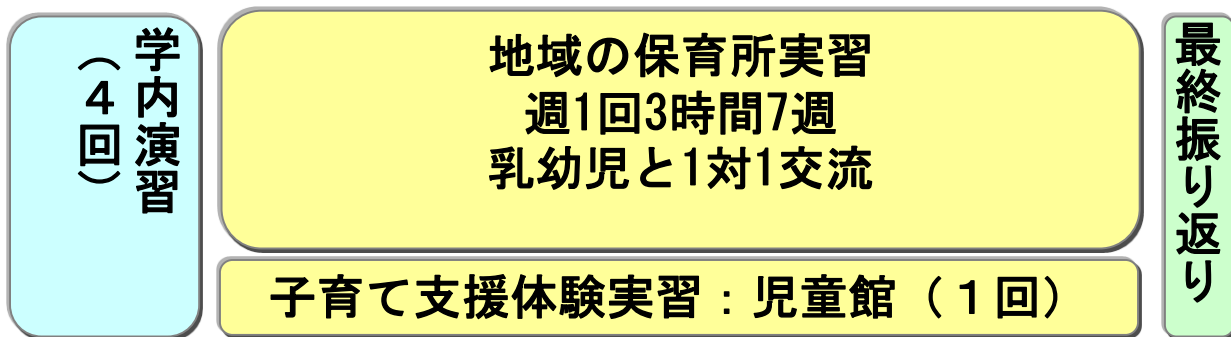
児童館における実習は混合のグループ編成とした。

保育所実習を1回減らし、実習前の学内演習を1回増やす。

平成21年度

前期「ヒューマン・コミュニケーション」授業

～乳幼児との継続交流を組み入れた体験型授業～

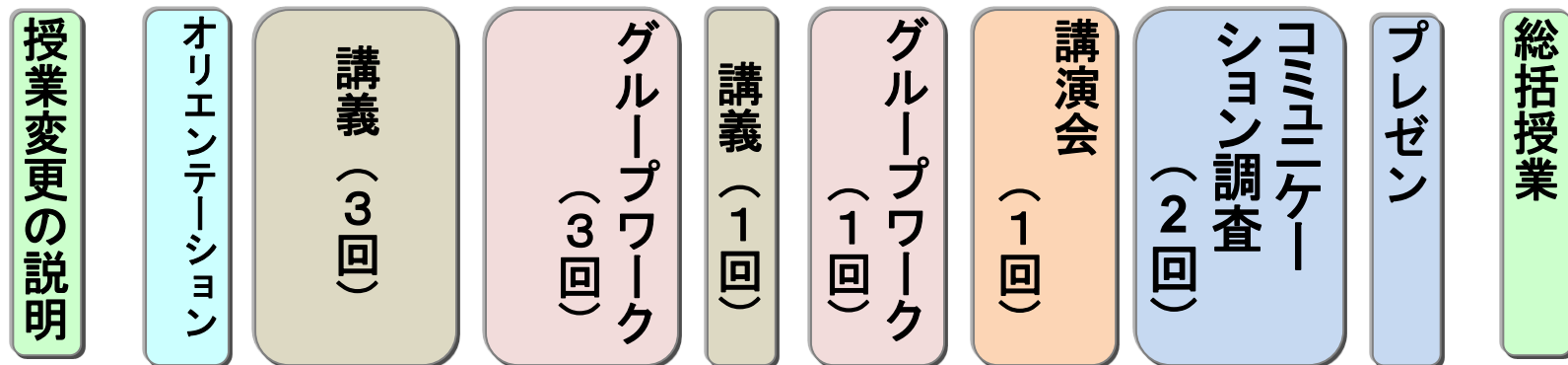


(90分×2コマ授業)

新型インフルエンザで3回休講

後期「医療とコミュニケーション」授業

～座学とグループワークを組み入れた授業～



(90分×1コマ授業)

国際医療NPO活動のWS1回

「医療とコミュニケーション」

1. オリエンテーション
2. 講義「脳と言語」
3. 講義「認知能力の発達とコミュニケーション」
4. 講義「人間行動におけるコミュニケーション」
5. グループワーク「聴き手のあり方」
6. グループワーク「ホスピタリティを学ぶ」
7. グループワーク「協力について」
8. 講義「コミュニケーションにおける空間的行動研究」
9. グループワーク「医療現場のコミュニケーション」
10. 講演会「手話」～聴覚障害者を招いて～
11. 身近なコミュニケーション調査
12. 身近なコミュニケーション調査
13. 身近なコミュニケーション調査発表





◆「きこえ」のようす

補聴器を使って「きこえ」を画像で表現すると以下のようになります。

実際の難聴は下記の症状が複合していますので、専門家の検査によって「きこえ」の状態を把握することが大切です。





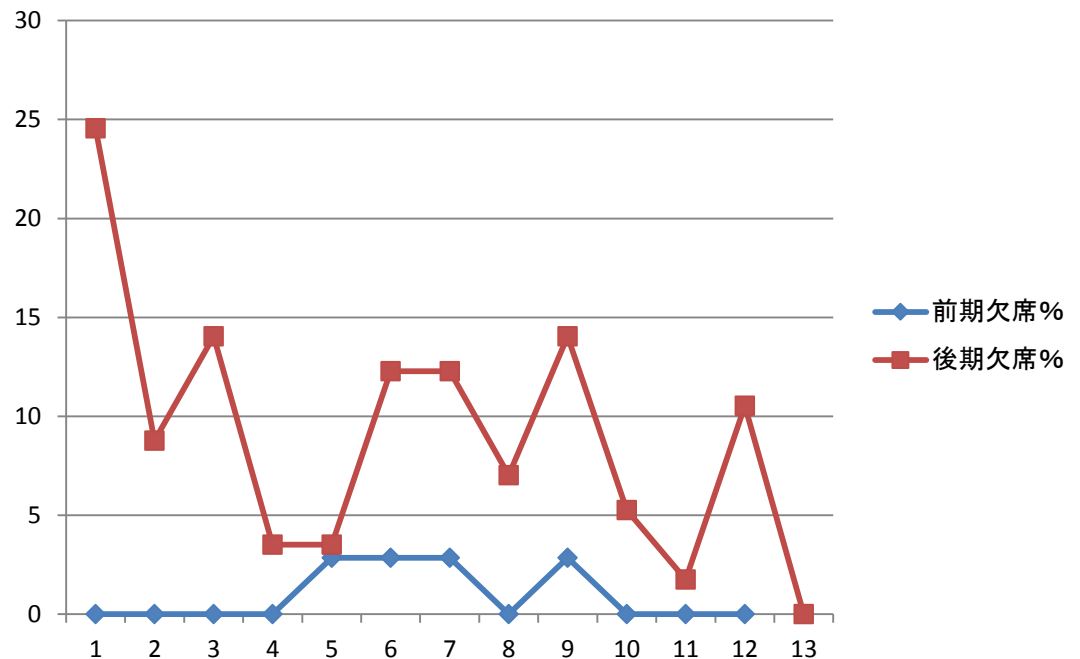
身近なコミュニケーション調査

- 表情と会話の内容について
- 血液型と性格
- 講義室における席の取り方
- 講義における先生の癖
- 買い物場面での店員さんとのコミュニケーション

出席状況の比較

前期: 35名

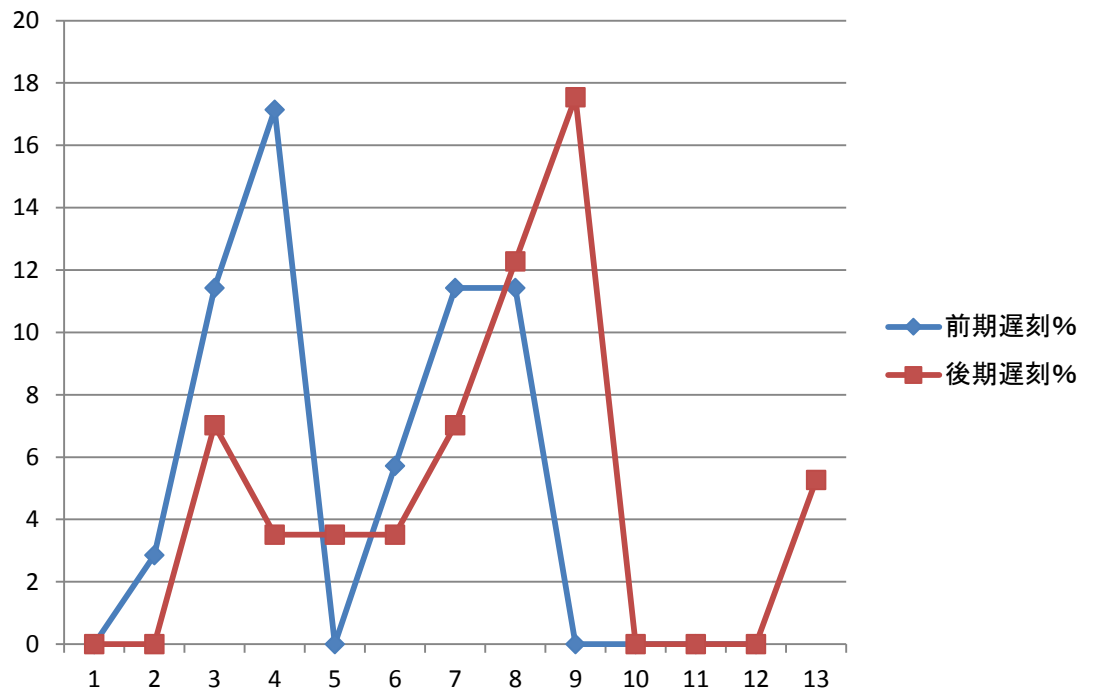
後期: 57名



遅刻状況の比較

前期は15分以内に来た

後期は最後の10分だけ



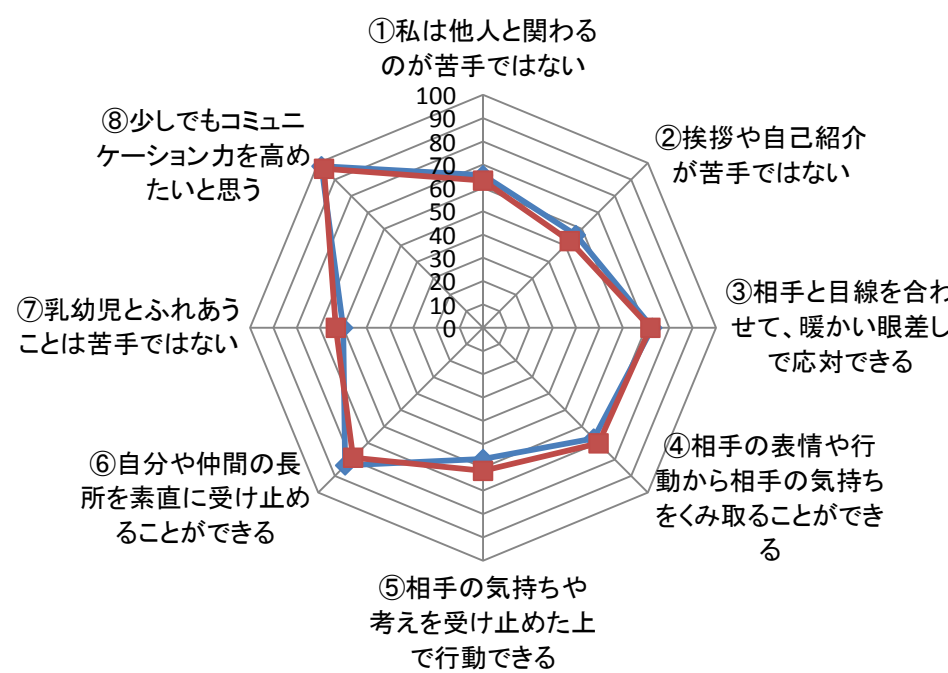
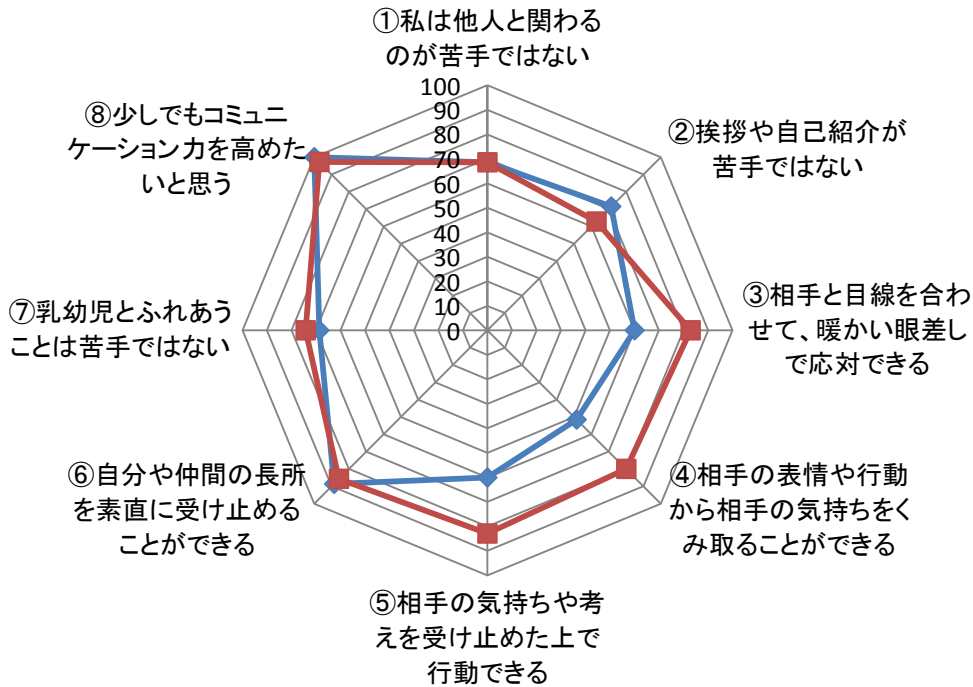
自己のコミュニケーション力に対する意識変化

「ヒューマン・コミュニケーション」

「医療とコミュニケーション」

◆ 授業前 ■ 授業後

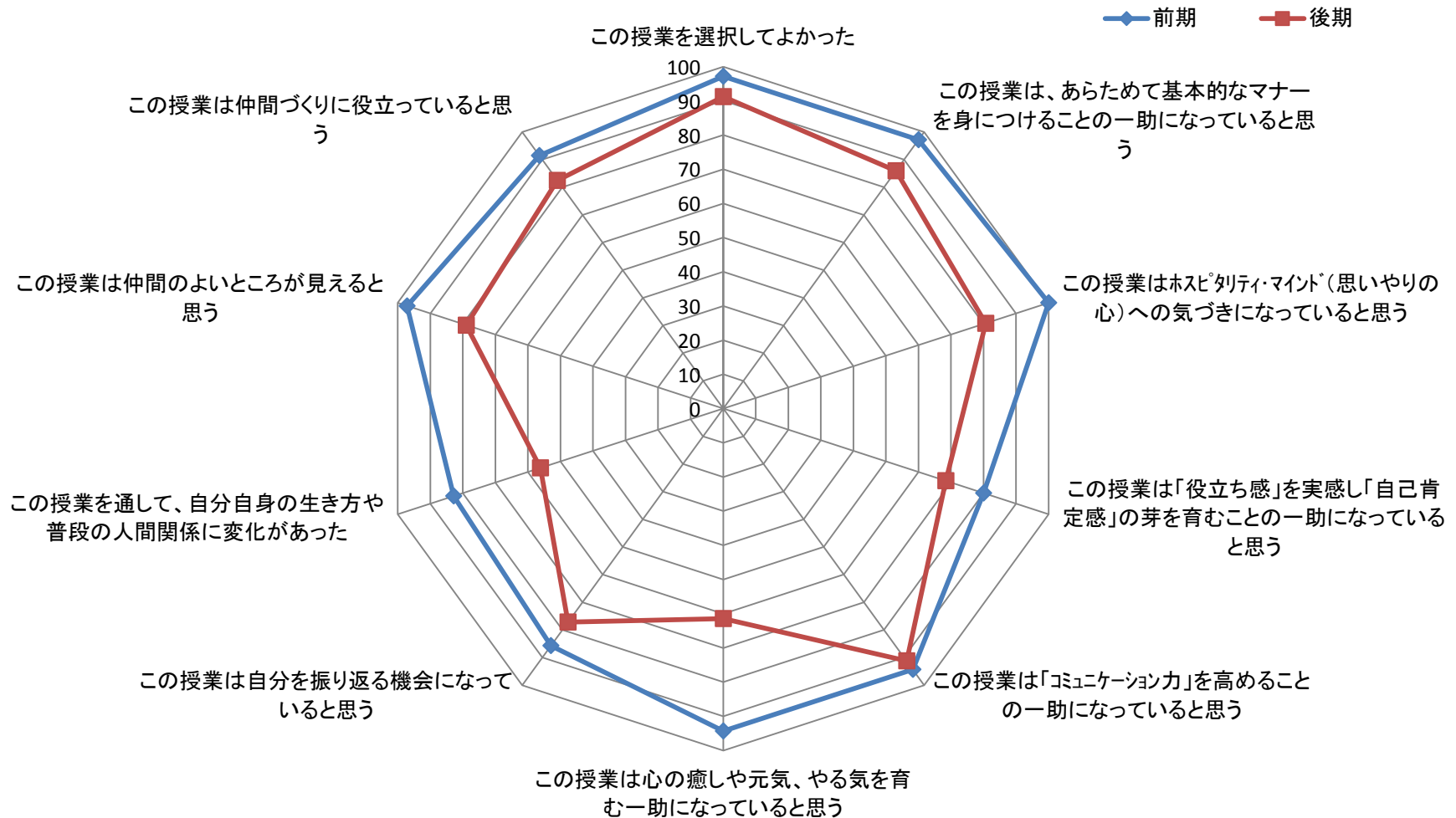
◆ 授業前 ■ 授業後



平成21年度 前期後期授業評価の比較

前期：医学科35名 後期：医学科57名

(5段階評価にて「思う」+「どちらかといえば思う」と答えた学生の割合)



自由記載

- 人間の心理状態、行動について、理論的に考える機会になった。
- 座学だけでなく自分自身が体験できた。
- 普段、あまりしゃべらない人と話す、いい機会だった。
- コミュニケーションの授業なのだから、もう少し外に出て行きたかった。
- 仕方ない急な授業変更であったが、やはり保育所実習を楽しみにしていたので残念だった

教員の立場から

- 行動を論理的にとらえようとする機会となった
- 学生を把握しきれない。

まとめ

- ★学生のモチベーションを保つためには乳幼児との関係が大きな効果をもたらしていた。
- ★交流実習は学生の感性にインパクトを与えていた。
- ★交流実習を含む授業では、IN-FORMALな部分での学生支援が可能であった。

ご静聴ありがとうございました。